

平成 30 年度 第 4 回庄内支部勉強会 活動報告

テーマ「脳卒中片麻痺患者における装具療法の考え方

～長下肢装具を使用した歩行トレーニングの実際～」

日時：平成 30 年 9 月 27 日(木)19:00～20:50

会場：鶴岡協立リハビリテーション病院

第 4 回庄内支部勉強会は、脳卒中片麻痺の装具療法をテーマに鶴岡協立リハビリテーション病院 脳卒中認定理学療法士 高橋智佳先生を講師に開催されました。

歩行における運動学・神経学的機構、片麻痺患者の歩行に対する装具の役割といった装具療法の考えるために重要な基礎的事項や理論的な背景の話から、実際にどのように歩行トレーニングや装具の選定を行っているかという臨床的な話まで、中身の濃い講義をしていただきました。また櫻山梢先生より鶴岡協立リハビリテーションでの装具療法の進め方の紹介を、渡部貴之先生と齋藤るみ先生より実際に装具療法を行っている症例の紹介を行っていただき、臨床の場で実際にどのように考え、装具療法に取り組んでいるかを知ることができ、大変勉強になりました。

「長下肢装具は理学療法士が運動療法を行ううえでの治療ツールであり、ただ装着するのではなく運動療法を組み合わせて行うもの」「定期的にロックを外して立位、歩行の評価も行うべき」という言葉が印象的でした。年々進化している装具療法ですが、装具はあくまでツールであって、どのように使うか、姿勢や動作をどう評価するかは理学療法士として常に考えていかなければならない点であり、その基本は変わらないのだと強く感じました。

講義の最後には事前に各病院、施設から募った質問事項への回答も頂きました。装具を使用している中での疑問や、カットオフ、装具選定時の判断基準、装具の修理はどこに依頼すればいいのか、金額はいくらくらいかかるか・・・など、様々な質問に対して丁寧にお答えを頂きました。このような疑問・質問をざっくばらんに言い合えることも、庄内支部勉強会のいいところではないかと思います。発表いただいた鶴岡協立リハビリテーション病院の先生方、参加された先生方、お疲れさまでした。

(文責：長谷部裕美)

